

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】

2023年3月14日配信（No. 82号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局交通政策課が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

kkt-kinki-kikakuka@mlit.go.jp

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。
今回は以下のラインナップでお送りいたします。



公共交通シンポジウム 2023 「“シームレスな移動”の実現に向けた地域公共交通」を
開催しました。

(関東運輸局)



令和4年度交通実践セミナー「アフターコロナに向けて地域交通を『リ・デザイン』」を開催
しました。

(中国運輸局)



「2022年度スローモビリティシンポジウム

～グリーンスローモビリティの普及に向けて～」を開催しました。

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 (エコモ財団))

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

公共交通シンポジウム 2023 「“シームレスな移動”の実現に向けた地域公共交通」を開催しました。

(関東運輸局)

関東運輸局では、令和5年1月23日(月)に、日比谷コンベンションホールにおいて公共交通シンポジウム 2023 「“シームレスな移動”の実現に向けた地域公共交通」を開催しました。

本シンポジウムは、「公共交通におけるデータ連携の高度化に向けた検討会」が令和4年6月に公表した取りまとめの解説のほか、データの連携・利活用に関する先進的な取組を紹介し、「シームレスな移動」の実現に向けたデータ連携の高度化の意義について考えることを目的として開催しました。当日は全国の自治体及び交通事業者などから、現地・オンラインあわせて約250名の方にご参加いただきました。

《話題提供》

『交通分野におけるデータ連携の高度化に向けて』

国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課 粟井課長補佐

MaaSの導入に当たっては、交通モード間や他分野との連携が重要であり、これらを実現するための手段としてデータ連携が必要不可欠となっている中、現状「シームレスな移動」の実現に至っていない部分が課題であり、こうした課題を解消するべく“データ連携の高度化”という観点から、開催した検討会において令和4年6月に行った取りまとめ等について解説がありました。

リアルタイムに変化する運行情報や、予約・決済情報等の動的なデータについて連携の高度化に向けて必要なステップや対応から、実施予定のデータ連携基盤の実証事業イメージまで「交通分野におけるデータ連携の高度化」に関する話題提供をしていただきました。



《事例発表①》

『群馬県におけるバス情報オープンデータ整備と今後の展望』

群馬県 県土整備部交通政策課 道路交通計画室長 松田 隆行氏

平成30年12月に県内全てのバス情報について、オープンデータ化した経緯から整備後の課題や今後の群馬版MaaSについてご説明いただきました。

オープンデータ化に対して当初関係者からあまり理解が得られなかった等の当時の様子、データの公開後における市町村や交通事業者に向けた業務の効率・デジタル化の重要性に関する説明会やワークショップの開催などの活用支援の状況、最終的な目標として公共交通を使用したまちの賑わい・活性化等を目指していく群馬版MaaS等について事例発表いただきました。



《事例発表②》

『地域とつくるエリアマネジメントとMaaS』

京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 まちづくり統括部課長 佐々木 忠弘氏

リモートワークの増加等による、従来の郊外と都心の二極構造の沿線まちづくりから新しい沿線まち



づくり(多極型まちづくり)に関連する「エリアマネジメントと MaaS に取り組む背景」についてご説明いただきました。

多極型まちづくりは、事業者単体だけではなく、地域と連携したエリアマネジメントに取り組むことで実現可能であり、令和4年8月に開始した京急沿線エリアマネジメント構想「COCOON(ココーン)プロジェクト」等について、事例発表いただきました。

《基調講演》

『データ活用と MaaS の展望』

モビリティジャーナリスト 楠田 悦子氏

スイス、オーストリア、ドイツ、イギリス、台湾の海外の公共交通の具体的な事例を紹介しながら、MaaS の展望として、「社会の課題解決に、どのようにまちを再構築しどのように移動手段を活用するか」についてご講演いただきました。



《パネルディスカッション》

パネルディスカッションにおいては、楠田氏をコーディネーターとして、ご登壇いただいた講師の皆様とディスカッションを行いました。

データの連携・利活用をテーマにして、今後の MaaS について、議論をしていただきました。

日々苦勞している点について、群馬県松田氏からは、「ダイヤ改正の場合、改正日当日に最新の情報に更新するだけでなく、ダイヤ改正日の前に、ダイヤ改正後の日付の時刻を検索する人に向けて更新しておく必要もあるため日々の管理が大変だ。」とのご意見がありました。

本シンポジウムにご参加いただいた方からは、「各分野で活躍されている方々の今後の MaaS のあり方について伺うことができ、大変勉強になった。」「MaaS やオープンデータ化が業務効率化にも寄与することが分かり有意義な政策だと思った。」「各事業者が何を目的に何を行動するかを気づかせてくれるシンポジウムだった。」とのご意見をいただきました。

本シンポジウムの当日の講演資料は関東運輸局 HP に掲載しておりますのでご参照ください。また講演の様子については、関東運輸局の公式 YouTube チャンネルで公開しておりますので、ぜひご覧ください。

関東運輸局 HP

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/seminar/seminar/r4_seminar_2.html

関東運輸局公式 YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCjW_A6qXpiqQnipuJVrtwJQ

令和4年度交通実践セミナー「アフターコロナに向けて地域交通を『リ・デザイン』を開催しました。
(中国運輸局)

中国運輸局では、令和5年2月20日(月)、シェラトングランドホテル広島（広島市東区若草町）において、「アフターコロナに向けて地域交通を『リ・デザイン』」をテーマに、地方公共団体の交通ご担当者や交通事業者の皆様へ、交通分野における課題解決のきっかけとしていただくことを目的として、令和4年度交通実践セミナーを開催しました。

当日は、約3年ぶりに全面対面での実施となり、中国地域の自治体の交通担当者や交通事業者等、100名近くの方にお越しいただきました。

【情報提供】

- ・中国運輸局交通政策部長 岡田幸大

中国運輸局からは、情報提供として、中国地方の交通事業者の現状と、最近の国土交通省における公共交通関係施策について、説明いたしました。

【基調講演】

- ・呉工業高等専門学校環境都市工学分野 教授 神田佑亮 氏

基調講演では、呉工業高等専門学校環境都市工学分野 神田佑亮氏より「地域交通の大変革期にどう臨むか？～アフターコロナに向けた地域交通の『リ・デザイン』有識者検討会の提言を受けて～」と題して、交通の問題を交通だけで対応するのではなく、まちづくりや都市経済の構造などから考えることの重要性について、ご説明いただきました。さらに、他分野との連携による地域の交通の活かし方や、地域の価値の高め方について、事例紹介を交えてご講演いただきました。



【事例紹介】

- ・広島県熊野町住民生活部生活環境課 主査 荻野孝雄 氏

熊野町の荻野氏からは、スーパーでの買い物や通院などに公共交通を利用していただくための生活サービス事業者との連携や、バス待合所などにおける地元住民のコミュニティスペースづくりなど、公共交通維持と地域活性化の取組の現状について、実際の利用客の様子などをご紹介いただきながら、今後に向けた課題等も含めてお話しいただきました。

- ・松江市交通局運輸課運輸企画係 主任 安部耕太郎 氏

松江市交通局の安部氏からは、バスの乗り方教室や、路線バスをはじめとした公共交通に関するイベントの開催など、行政や他事業者と積極的な連携により、低廉な費用で実施することが可能となった、利用促進のための取組や情報発信の方法についてお話しいただきました。

・備北交通株式会社総務部企画課 係長 稲垣匡彦 氏

備北交通株式会社の稲垣氏からは、中山間地域におけるバス事業者の取組事例として、地元のパン屋やスーパーと連携した貨客混載や、観光客や地元の学生を対象とした企画乗車券、鉄道とバスの運行情報を1つにしたデジタルサイネージの活用など、過疎地域におけるバス事業者の収益確保や公共交通利用促進に向けた取組についてご紹介いただきました。

【トークセッション】

・登壇者：広島大学大学院先進理工系科学研究科 藤原章正教授、呉高専神田教授（進行役）、米子工業高等専門学校 加藤博和教授、熊野町 荻野主査、松江市交通局 安部主任、備北交通株式会社 稲垣係長

トークセッションでは、当日お越しいただいた聴講者よりWEB上にて質問を受け付け、会場の全員と質疑内容を共有した上で、登壇者の皆様に回答していただく、という形で進められました。取組事例を紹介いただいた登壇者の皆様からは、取組において成功に至ったポイントや、現状・今後に向けた課題など、実際に取組を担当された中で感じたことについて、お話しいただきました。

今回、中国運輸局の交通実践セミナーとしては初めて、トークセッションという形で開催いたしました。事後のセミナーアンケート調査にて、

「新たな発見があった」「会場全員で質問内容が共有され、聞きやすかった」など、高い評価をいただきました。最後に、進行いただいた呉高専の神田氏からは、「コロナ禍の重たい時期が明けて、何とかかなり始めるぞというこのタイミングで、議論ができたことは幸せに思う」と、ご講評いただきました。



「2022 年度スローモビリティシンポジウム

～グリーンスローモビリティの普及に向けて～」を開催しました。

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団(エコモ財団))

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、令和5年2月13日(月)、スクワール麹町3階錦華(東京都千代田区)において、離島地域におけるグリーンスローモビリティの更なる普及促進やスローモビリティの普及啓発に向け、「2022 年度スローモビリティシンポジウム～グリーンスローモビリティの普及に向けて～」を開催しました。

当日はオンライン配信(YouTubeによるLIVE配信)も同時に行い、全国の官公庁関係者をはじめ、大学関係者や交通事業者、シンクタンク・コンサルタントなど、会場・オンラインを合わせて、270名の方々にご参加いただきました。

2022年度
スローモビリティシンポジウム

参加費FREE

グリーンスローモビリティの 普及に向けて

グリーンスローモビリティは、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です。

開催日	2023年 2/13(月)	開催場所	スクワール麹町 3階「錦華」
時間	第1部 13:30~14:50 第2部 15:00~16:30	主催	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
開催方法	ハイブリッド (会場100名+オンライン)	後援	国土交通省、(一社)日本自動車工業会、 (公社)日本バス協会、(一社)日本自動車連盟、 (一社)全国ハイヤー・タクシー連合会

《開会挨拶》

・公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団理事長 門野秀行

本シンポジウムの主催者を代表して、当財団理事長の門野より開会の挨拶を行いました。



《来賓挨拶》

・国土交通省 大臣官房審議官(公共交通・物流対策) 木村典央氏

シンポジウムの開会に先立ち、国土交通省の木村典央大臣官房審議官より、来賓のご挨拶を賜りました。



《基調講演》

- ・東京大学名誉教授／一般財団法人日本自動車研究所代表理事 研究所長 鎌田実 氏



基調講演では、東京大学名誉教授・一般財団法人日本自動車研究所の鎌田実代表理事より「グリーンスローモビリティの普及に向けて」と題して、我が国の現状やグリーンスローモビリティの利点、活用の方向性等について、各地での実証・導入事例紹介を交えながら、ご講演いただきました。

《特別講演》

- ・宮崎市 企画財政部 都市戦略局 都市戦略課 公民連携推進室 日高和哉 氏

特別講演では、本年度の交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰を受賞した宮崎市まちなかグリスロ運行協議会の取組事例について、宮崎市企画財政部都市戦略局都市戦略課公民連携推進室の日高和也主査より「新モビリティがつなぐ次世代型のまちづくり」と題して、宮崎市の中心市街地で運行しているグリーンスローモビリティ「ぐるっぴー」の運行概要や導入経緯とともに、地域の方々との連携した取組みや、まちづくりと一体となった今後の取組み状況等について、ご講演いただきました。



《パネルディスカッション》

- ・パネリスト：（一財）日本自動車研究所 鎌田代表理事、鳥羽市企画財政課 木下氏、
（一社）姫島エコツーリズム寺下代表理事、（公財）日本離島センター 小島専務理事、
国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課 古谷課長補佐
- ・コーディネーター：（公財）交通エコロジー・モビリティ財団 熊井大

パネルディスカッションでは、大分県姫島村における導入事例（姫島エコツーリズム 寺下代表理事による）や三重県鳥羽市答志島における実証調査事例（鳥羽市企画財政課 木下氏による）を踏まえ、離島地域における現状と課題について意見交換や議論を行いました。また、現状における離島地域でのグリーンスローモビリティの導入に係る支援事業（エコモ財団 熊井による）について情報共有を行ったうえで、今後、離島地域においてグリーンスローモビリティ



ィの普及促進を図るうえでの課題や展望等について、ご議論いただきました。



《その他》

会場では、グリーンスローモビリティに関するパネル展示やモビリティスクーターの納車式を行いました。



当日の講演資料は、エコモ財団 HP に掲載しており、シンポジウムの様子もエコモ財団 YouTube チャンネルでのアーカイブ配信を予定しております。当日ご参加出来なかった方、もう一度講演等をご覧になりたい方は、そちらもぜひご覧ください。

エコモ財団 YouTube チャンネル (<https://www.youtube.com/@user-dd2zq5nq1q/featured>)

エコモ財団ホームページ (<http://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/symposium2022.html>)

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

地域交通課では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局交通政策課 田中・田口
〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8986（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: hqt-koutsuseisaku_joho@gxb.mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html



